

吊り橋の上に暮らす自覚

約2週間前の先月28日にミャンマーでマグニチュード7.7の地震が発生しました。インターネットやテレビなどで、大きな建物が崩れていく様子を観た人もいるでしょう。衝撃的な映像でした。お亡くなりになった方は3000名を超えたということですが、まだまだ被害の全容はわかりません。お亡くなりになった方々のご冥福をお祈りします。

先日、読売新聞のコラムで書かれていた内容を紹介します。昭和の初め、箱根で事故が起きました。女学校の生徒たちが記念写真を撮るために、吊り橋の上に並んでいた時に、橋の一方に体重をかけすぎたのでしょうか、吊り橋はぐらぐらと揺れ始めました。生徒は騒ぎ立て、揺れが一層激しくなり、橋は落下し、多数のけが人が出てしまったのだそうです。

コラムの中では、物理学者の寺田寅彦さんが、この事故を取り上げつつ、次のように述べていることが紹介されました。「日本の国土全体が一つの吊り橋の上にかかっているようなものだ」という内容です。確かに、日本は地震が多い国です。能登半島を襲った地震の記憶は新しいものです。先日の報道では、「南海トラフ地震」の被害推計が発表されていました。津波と合わせ、死者は最大29万8000人との推計でした。日本に住む私たちは、必要以上に不安になることはありませんが、吊り橋の上に暮らす自覚や、いざというときに頼る知識や行動への心がけをしっかりとつことが大切です。先の箱根での事故は、吊り橋の上で行動する際にどのようなことに気をつければいいのかという知識があり、冷静に行動できていれば、防げたはずです。

本日の避難訓練を行うことで、先ほどお話したように、いざというときに頼る知識や行動への心がけを持つことができればいいですね。具体的には、学校で地震が発生した場合の「避難経路」や自分の身を守るための心構えである『お・か・し・も・ち』などを体験することが、それに該当します。学校だけでなく、お家にいるときに地震が起きたらどうすればいいのか、避難場所などをお家の人と確認しておく必要もあります。学校では、年間を通じて「ショート避難訓練」を10回程度実施します。繰り返し実施することで、意識を高めることが目的です。しっかり取り組んでいきましょう。

避難訓練の講評は以上です。